

授業改善の視点

①学習指導要領改訂の動向について

学習指導要領の次期改訂については、様々な情報が報道されるようになりました。

小学校で英語が必修化され、またプログラミング教育が導入されるようであるとか、高等学校では、世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉えて、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察する「歴史総合」が共通必修科目として設定されるなどの大きな変化がすでに報道されており、また、どのように学ぶかという視点として、「アクティブラーニング」という言葉も、日常的に耳に入ってくるようになりました。



ではいつ改訂になるのかというスケジュールですが、ご覧のように高校での実施は平成34年度から年次進行でスタートします。まだ5年ちょっとの時間があるわけですが、来年度、平成29年度中には新しい学習指導要領が示されることになっています。そこからじっくりとその内容を理解して、平成31年度から先行実施が可能となるという流れになります。

なお、参考までに、高等学校の保健体育の標準単位数ですが、改訂後も体育は7～8、保健は2の必修科目として確保される見込みだそうです。

次期改訂までには少し時間があるところではありますが、先取りということで、改訂に向けた作業の中で示されている考え方を簡単に紹介したいと思います。

これまで、学習指導要領の改訂は、各教科が目指す姿をそれぞれがイメージしながらおこなわれてきましたが、今回は共通した「育成を目指す資質・能力」が「三つの柱」として示され、そこを目指して各教科で作成作業が進められています。



「三つの柱」とは、①何を知っているか、何ができるかという「個別の知識・技能」、②知っていること・できることをどう使うかという「思考力・判断力・表現力等」、③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るかという「学びに向かう力・人間性」であります。

将来の予測が難しい社会において、自立的に生きるために必要な「生きる力」を育むために、全ての教科で、この三つの柱をしっかりと身に付けさせましょうということです。



では教科「保健体育」では具体的に何を身に付けさせるのか、まだ検討途中ではありますが、このような試案が示されています。詳細はお手元の資料をご覧くださいと思いますが、現行と異なる部分については、【知識】と【技能】、つまり【わかる】と【できる】を一つの観点でまとめてあるところです。「よくわかっていないけれどもできている」状態や、「わかっているけれどもできない」という状態をどのように評価するかということについては、今後研究が必要になってくる部分だと思います。



体育・保健体育は、小学校から高校まで必修となっています。つまり全ての国民が履修

し、現在高等学校への進学率は 97%を超えていることから、ほとんどの国民が 12 年間履修するわけで、高校の 3 年間だけでなく、小学校から 12 年をかけて学習するという視点から、それまで 9 年間の学習内容を踏まえ、12 年間の出口である高校での 3 年間でどのような力を身に付けさせて社会へと送り出すかという観点が必要になってきます。

ここまで、次期学習指導要領について、簡単にお話しをしてきましたが、この部分については、是非、今後少しずつ情報を集めていただきたいと思います。なお、本日お示しした資料は文部科学省の H P に既にアップされているものですので、お時間があるときにご覧いただきたいと思います。



②今、体育授業で確認すべきこと

ここからは、次期改訂を前に、今、体育授業で確認していただきたい点についてお話しをします。



難しいお願いではありません。確認していただきたいのは、現行の学習指導要領の趣旨に沿った授業が確実に行われているかということでもあります。

現行の学習指導要領が実施されて 4 年目となりました。「体づくり運動」って何だ？「体育理論」って絶対やらなくてはダメなのか？「観点別の指導と評価って何だ？」からのスタートであったと思います。

これは教科保健体育の目標です。「生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育て」、「健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図」ることで、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てましようとなっています。



ご覧のような様々なキーワードや課題が提示されましたが、先生方は試行錯誤しながらこれらの課題等をクリアしながら現在に至っておられることと思います。

もしも、現段階で、現行の学習指導要領に示された内容と、実際の授業にギャップがあると、その差を今のうちに埋めておかないと、次期改訂でさらにギャップが広がっていくことになり、求められている授業、行わなければならない授業と現実の授業がどんどん遠ざかってしまうことになってしまいます。この状況は是非避けていただきたいと思います。

アカウンタビリティ（説明責任）という言葉が盛んに言われます。学校への期待が大きくなるが故に、厳しい目で見られる時代になっています。この意味からも、各学校で学習指導要領の趣旨に沿った指導と評価が行われる必要があります。



そんな中、特に確認をいただきたい点はこの 2 点です。

ひとつめは、観点別の指導と評価が確実に行われているか、ふたつめは、観点別の指導と評価に向けて、3 年間を見通した指導と評価の計画が作成されているかということです。

（観点別の指導と評価については、正直、実際のところまだまだ馴染んでいない印象が

あります。)

現行の学習指導要領では、ご存じのように、【技能】【態度】【知識、思考・判断】を指導することになっています。評価規準は観点別に設定されており、また各校で作成したシラバス上も観点別で評価することになっています。次期改訂においては、先ほどの3本の柱に沿ってという形で、観点別の指導と評価は継続されることになっており、今一度しっかりと確認しておく必要があります。(この部分については、まずはやっていただくこと、そしてなかなかうまくいかないという感覚の中で、試行錯誤を繰り返していただきながら、時間をかけて慣れていかないと定着しないのかなと思います。)

ここで先生方から聞こえてくる課題として、「運動量の確保」があります。例えば、【思考力・判断力】を身に付けるねらいで話し合い活動をしましょうとなると、その分運動する時間は少なくなるわけです。そこで先生方はちょっと抵抗感を感じるわけです。

ただし、毎時間話し合う必要はないわけで、この時間はじっくりと【技能】を身に付ける時間であるという時間も確保しながら、この時間では少し考えさせようというように、バランス良く4観点の指導を単元の中で配置すれば良いという考え方です。

別冊の資料をご覧ください。こちらは私が作成した、武道(剣道)の、3年間を見通した指導と評価の計画です。前半部分は、学習指導要領解説に示された、観点別の指導内容をまとめておきました。ご存じのように、入学年次とその次の年次以降で指導内容も変わっていることもご確認ください。

最後の頁、A3版ですが、卒業時に身に付けていてほしい姿をゴールイメージとして、3年間をかけてどのように段階的に指導していくかが示されています。

3年間のうちにはクラス替えがあります。担当の先生も替わります。その中で、担当の先生によって指導する内容が異なる、評価の仕方も異なるでは、3年間の一貫した指導はできず、学年毎のコマ切れの授業になってしまいます。

また、バスケットボールを例にしますが、高校ではほとんどの学校で1年生でも2年生でも3年生でもやるわけです。中学校でも取り上げられているわけで、同じ内容を異なる校種、学年で繰り返し学習することは、他の教科にはないですね。このとき、1年生でのバスケはここまで育て、2年生ではここまで育てて、最後3年生でここまで仕上げるというビジョンがあってほしいわけです。

なかなか大変な作業になると思いますが、それぞれの単元で3年間を見通した計画が作られることはとても大切なことになります。

本年度、私が担当した各種研修会の受講者の皆さんには、3年間を見通した単元計画を作成していただいています。今後、皆さんの目に触れる機会が出てくると思いますので、先生方の学校の実情に応じた形でアレンジして活用していただきたいと思います。

③実践例(八海高校)

ここからは先日、八海高等学校で開催された、全国高等学校体育学科・コース連絡協議

会研究大会において公開された、八海高校体育科の授業実践を紹介したいと思います。研究主題は「地域のスポーツの振興発展に貢献する人材の育成」ということで、主に「指導者」としての資質能力を育てることでした。

まずは1年生のスポーツⅡ、ゴルフです。ショートアイアンでのフルショットをタブレット端末で撮影し、互いの課題を見つけ、教え合うという授業です。

1年生なので、まだ映像を見て分析することも、課題を発見することも、教え合うこともなかなかうまくできません。なので、映像と比較できるような見本連続写真などを準備し、どのような観点から動作分析をするのか、またどのような技術のポイントを教え合うのかといった視点をしっかりと教えてあげる必要があります。最初は不慣れな生徒も、活動を繰り返していく中で、少しずつ見取る力がついてきて、また教え合いも活発になってきました。

続いて2年生のスポーツⅡ、バレーボールです。チーム別に、ゲームと、課題解決のための練習を繰り返す活動の中で、生徒たちは1年生からの経験を生かし、自分たちで課題を見つけ、課題解決のための方策を自分たちで工夫して、自分たちが必要と感じたタイミングで話し合いと教え合いをしている様子が見られました。ゲームの中でも、タイムアウトを取って話し合い、教え合う姿が見られました。

そして3年生、体育科では「スポーツ総合演習」という科目がありますが、簡単に言うと課題研究の科目になります。この時間は研究発表会でしたが、映像を見て、指導のポイントやアプローチの仕方、段階的な指導方法についての研究成果が発表されていました。八海高校といえばスキーのイメージがありますが、スキー部の生徒は3，4名とのことでした。しかしながら、1，2年生の教え合いの経験を生かし、的確な観点から専門性の高い指導法の発表がありました。

この実践は、まさに先ほど説明しました、3年間を見通した指導と言えると思います。指導する单元こそ違えど、1年生ではここまで、2年生では、そして最後3年生で、卒業時に身に付けていてほしい資質・能力が育成されているようにするという、3年計画で目指す姿を実現するという観点からの指導がおこなわれている一例であります。

先生方からも是非、うちの学校では3年間の体育の授業で、こんな力を身に付けさせるぞ、こんなことができるようにしてあげるぞ、こんな風にスポーツと関わることをできるようにしてあげるぞという、具体的な目標を設定していただき、3年間をかけて指導し、育てていただきたいと思います。

④県内高校におけるダンス授業の実施状況